

高品質「日本製」こだわり／ITツール活用

「変革」打ち出す ア・ミューズ

岐阜市で2日開幕した岐阜アパレルの総合展示会「第24回ア・ミューズ岐阜」。テーマに掲げた「変革」の通り、高品質の日本製をアピールして独自色を打ち出す企業や、ITの活用を提案する企業など、顧客ニーズや時代の変化を取り入れる動きがみられる。

「大手企業と同じ土壌なのは、彦坂（同市金）で競争しない。自社（町）の彦坂圭治社長。の持ち味を生かし、差 同社がPRする婦人向別化するために日本製のジャケットやパンツを扱う」とメード・イツなどの商品は全て日本製だ。



日本製の商品などが並ぶ「第24回ア・ミューズ岐阜」の展示会場＝岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ



テクノアがPRするインターネット上で洋服を立体的に表現するソフトウェア＝同

本製が増えている」と話す。

ITの活用を提案するのは、ソフトウェア開発のテクノア（同市本庄中ノ町）。今回初めて参加し、インターネット上で洋服を立体的に表現するソフトを紹介している。

例えばオーダーメイドのスーツを購入する際、タブレット端末などの画面上で、顧客が好みの色や柄のスーツを選んで表示し、コーディネートを簡単に確認できる。バイヤーの営業ツールや、出展社が製品をPRするツールとして注目を集めている。

同社の担当者は「アパレル産業でもITの導入が進んでいる。この商品が地場産業の発展の一助になれば」と話す。

そのほか、フロアシヨールでは3日の午後2時の回に、一般の人がモデルを務めるショーを初めて開催する。市民にも岐阜アパレルの魅力に触れてもらうのが狙い。北川委員長は「岐阜アパレルが変わったところをアピールしたい」と力を込める。